

競技施設公認規程

第1条 この規程は、競技本部規程第1条第7号に基づき、施設公認手続きに関することを定める。

2 全日本スキー選手権大会とそれに準ずる競技会及び本連盟A級公認競技会（アルペンはB級競技会及びユース競技会を含む）に使用するジャンプ台及びクロスカントリー競技コース、アルペン競技コース（ダウンヒル、スーパーG、ジャイアントスラローム、スラローム）は、本連盟公認のものでなければならない。

第2条 ジャンプ台及びコースの公認を求めるときは、次に掲げる書類を整え、工事着手前に所属加盟団体を通じ、本連盟会長に提出するとともに本連盟の審査を受けなければならない。

- (1) 公認申請書（別紙ヒナ型参照のこと）
- (2) 位置図（縮尺は各競技別細目に従うこと）
- (3) 平面図（縮尺は各競技別細目に従うこと）
- (4) 縦断面図（縮尺は各競技別細目に従うこと）
- (5) 横断面図（縮尺は各競技別細目に従うこと。ただし、ジャンプ台公認申請のみ必要）
- (6) 設計図（ジャンプ台のみ平面図、縦断面図、横断面図、審判台一般図）
（縮尺1/500実測による地盤高は必ず記載のこと）
- (7) ジャンプ台諸点計算表（ジャンプ台のみ）
- (8) コース・アップダウン表並びに会場図（クロスカントリーのみ）

(9) SAJから派遣されたコース公認調査員（インスペクター）の調査報告書（様式1・2・3）

2 ジャンプ台の改造、新設に当り、本連盟に基本プロフィールを依頼する場合の手続きは、本連盟飛躍台設計小委員会規程による。

第3条 公認申請のあった場合、各種目ごとに当該委員が現地調査を行い、公認委員会が判定の上、理事会が承認する。ただし、調査に必要な経費は、申請者側が負担するものとする。

第4条 公認が決定した場合、各種公認・登録等料金一覧表の定める公認料を納付するものとする。

第5条 施設の公認申請の受付は、毎年7月31日までとし、その有効期間は、毎年10月1日から翌年の9月末日までとし、公認を継続する場合は、毎年同時期に更新手続きを行い審査を受ける。ただし、5年に1回は当該委員が第3条と同様に現地調査を行う。

2 登録料は、各種公認・登録等料金一覧表のとおりとする。ただし、更新中断の場合は、新規の公認申請として取扱うものとする。

第6条 公認ジャンプ台、コースに必要な条件は、ルールのほか、次の各号に掲げるとおりとする。

(1) 各種目共通に必要な事項

- ① 競技会運営、コース施設整備力、宿泊等、全日本スキー選手権大会とそれに準ずるアルペン競技会又はA級、B級及びユース競技会開催に必要な条件を備え、公認旗門審判員20名以上、競技運営指導員10名以上を有すること。
- ② コースの大部分にリフトなどの機械力を有し、これらの施設は競技会等の場合、役員選手を優先的に輸送できるような協力を得られること。

- ③ コース会場全般に行きわたるような放送施設を必要とし、できれば、これらの施設は、恒久的なものであることが望ましい。
- ④ スタート及びゴール付近に競技運営に必要な小屋、選手控室、便所などの施設を有すること。
- ⑤ 怪我人を収容する救護用具体制を整え、なるべく近くに収容できる病院などがあること。
- ⑥ コース中に危険を防止するための防護施設が十分配慮されていること。
- (2) 各競技別に必要な事項
- ① ジャンプ台（飛躍競技）については、本連盟飛躍台設計小委員会規程によるもの以外は公認しない。
- ② クロスカントリー
- a クロスカントリーコースの公認は、ICRとFISコース公認マニュアルの規定に適合することを基準とする。
- b コースの計測は、コース公認マニュアルに従い測量計器を使い正確に行うこと。
- c 競技会運営経歴、コース付近での宿泊可能人員、コース管理者を明示すること。
- ③ アルペン競技コース
- a 競技の種別（ダウンヒル、スーパーG、ジャイアントスラローム、スラローム）
- b コースの名称
- c コースの所在地
- d コースの管理者
- e コースの概要については、コースの地理的状态、コースの方位、スタート地点の標高、ゴール地点の標高、コースの標高差、コースの全長、平均斜度最大斜度、最近5年間の積雪状態、一般的な視界、コースに及ぼす風の影響、負傷者の救出方法、観客の対策、コース付近の水の有無
- f コースの施設については、スキーリフト（スタートまでの輸送時間及び輸送能力）、小屋・便所（スタート並びにゴール）、放送施設（ゴール付近及びコース全般にわたるもの）、コースの防護施設対策
- g 競技会運営については、過去の競技会運営の経歴、宿泊施設、宿泊可能人員、公認旗門審判員の数、競技運営指導員の数
- h その他添付書類については、申請書ヒナ型参照のこと。提出部数は4部とする。
- (3) コースの基準
- ① ジャンプ台（飛躍競技）
- 本連盟A級公認ジャンプ台は、ルール第411条に規定するものを対象とし、諸数値は、ルールによるが、小ジャンプ台においても本連盟A級公認競技会を行うものは、本連盟飛躍台設計小委員会規程によらねばならない。
- ② クロスカントリー競技コース
- a 原則としてクロスカントリーのコースは、次のように設計される。
- (1) コースの3分の1は、標高差10m以上、斜度9%から18%の登り、若干の18%を超える急な開脚登りを含む登り部分とする。
- (2) コースの3分の1は、標高差1mから9mの小さな登り下りを含む、あらゆる地形の特徴を活用した小さな起伏地とする。
- (3) コースの3分の1は、多様な滑降技術を要する変化に富んだ下り部分とする。
- b コース基準の詳細は、ICRの規定とFISクロスカントリーコース公認マニュアルに従う。
- ③ アルペン各種別コース公認
- ・ダウンヒル、スーパーG、ジャイアントスラローム、スラロームのコースデータは、F

3 1 2

I S I C R 第 3 セクションにあるルール of データをクリアしていること。

また、ユースカテゴリーの各種目公認についても同様とするが、国内特別ルールの数字をクリアしたコースも同じとする。

国内特別ルール（標高差）：

スラローム K 1 / K 2 : 100m ~ 160m

ジャイアントスラローム K 1 : 140m ~ 300m、K 2 : 160m ~ 350m

スーパー G K 1 : 250m ~ 400m、K 2 : 250m ~ 450m

K B K 1 : 120m ~ 200m

第 7 条 既に公認されているコースは、公認期間の満了と同時にその効力を失うものとし、その後は、本規則によって新たな公認を受けなければならない。

第 8 条 この規程の改廃は、競技本部理事会の議決による。

附則 アルペンのユース競技会は、チルドレン競技会を含むものとする。

平成 28 年 6 月 29 日 改正

(様 式)

S A J ジャンプ台、コース公認申請書

平成 年 月 日

公益財団法人全日本スキー連盟会長 殿

申 請 者

所属都道府県連盟

ジャンプ台、コースの種別

ジャンプ台、コースの名称

ジャンプ台、コースの所在地

ジャンプ台、コースの管理責任者

ジャンプ台、コースの概要

- | | |
|-------------|------------------------------|
| (1) コースの全長 | (2) 標高差及びスタート地点、
ゴール地点の標高 |
| (3) 平均斜度 | (4) 最大斜度 |
| (5) 会場地点の標高 | (6) 極限登行標高差 |
| (7) 合計標高差 | (8) |
| (9) | (10) |

注：(5)、(6)、(7)については、距離コースのみに必要

ジャンプ台、コースの施設

- | | |
|------------|----------------------|
| (1) スキーリフト | (2) 小屋、便所（ワックスルーム） |
| (3) 放送施設 | (4) 防護施設 |
| (5) 掲示板 | (6) ジャンプ台、プロフィールのゲージ |

大会運営

- | | |
|---------------|---------------|
| (1) 経歴 | (2) 宿泊施設 |
| (3) 宿泊可能人員 | (4) 公認旗門審判員の数 |
| (5) 競技運営指導員の数 | |

申請書類（4部）

- (1) ジャンプ台、コースの位置図（1／50,000）
- (2) ジャンプ台、コースの平面図（1／1,000）
- (3) ジャンプ台、コースの縦断面図（1／1,000アルペン、1／500ジャンプ台）
- (4) ジャンプ台、コースの全景写真（18cm×24cmアルペン）

(様 式)

SAJクロスカントリーコース公認申請書

年 月 日

公益財団法人全日本スキー連盟会長 様

都・道・府・県スキー連盟会長

印

コースの種別

コースの名称

コースの所在地

コースの管理責任者

コース調査員氏名

コースの概要

- (1) コース全長 Km
- (2) カテゴリー(A・B・C・D・E)
- (3) 標高差(HD) m
- (4) 最高地点標高 m
- (5) 最低地点標高 m
- (6) スタジアムの標高 m
- (7) 合計登高値(TC) m
- (8) 極限登高値(MC) m

スタジアムエリア

- (1) レースオフィス 常設 ・ 仮設
- (2) スキーテスト:スタジアムに 近い ・ 遠い
- (3) ウォームアップトラック:スタジアムに 近い ・ 遠い
- (4) 交通アクセス
- (5) 駐車場 台駐車可能
- (6) トイレ
- (7) 更衣室

室内作業環境

- (1) 計時室
- (2) 計算室
- (3) 放送室
- (4) 報道関係
- (5) ジュリー室
- (6) ワックスルーム

大会運営

- (1) 経歴
- (2) 宿泊可能人数
- (3) 公認技術代表の人数
- (4) 競技運営指導員人数

申請資料(4部)、コース調査員の調査報告書添付(4部)のこと

- (1) 競技場の位置図(1/50,000)
- (2) コースの平面図(1/5,000)
- (3) 会場図(1/1,000)
- (4) コースの縦断面図(垂直1/2,000、水平1/20,000)

(5) コース・アップダウン表
(様 式)

S A J ジャンプ台、コース公認申請書

平成 年 月 日

公益財団法人全日本スキー連盟会長 殿

申 請 者
所属都道府県連盟

ジャンプ台、コースの種別
ジャンプ台、コースの名称
ジャンプ台、コースの所在地
ジャンプ台、コースの管理責任者
ジャンプ台、コースの概要

- (1) コースの全長
- (2) 標高差及びスタート地点、ゴール地点の標高
- (3) 平均斜度
- (4) 最大斜度
- (5) 会場地点の標高
- (6) 極限登行標高差
- (7) 合計標高差
- (8)
- (9)
- (10)

注：(5)、(6)、(7)については、距離コースのみに必要

ジャンプ台、コースの施設

- | | |
|------------|----------------------|
| (1) スキーリフト | (2) 小屋、便所（ワックスルーム） |
| (3) 放送施設 | (4) 防護施設 |
| (5) 掲示板 | (6) ジャンプ台、プロフィールのゲージ |

大会運営

- | | |
|---------------|---------------|
| (1) 経歴 | (2) 宿泊施設 |
| (3) 宿泊可能人員 | (4) 公認旗門審判員の数 |
| (5) 競技運営指導員の数 | |

申請書類（4部）

- (1) ジャンプ台、コースの位置図（1/50,000）
- (2) ジャンプ台、コースの平面図（1/1,000）
- (3) ジャンプ台、コースの縦断面図（1/1,000アルペン、1/500ジャンプ台）
- (4) ジャンプ台、コースの全景写真（18cm×24cmアルペン）

(様 式)

S A J ジャンプ台、コース公認調査報告書

平成 年 月 日

公益財団法人全日本スキー連盟会長 殿

調査委員

ジャンプ台、コース申請者

所属都道府県連盟

ジャンプ台、コースの種別

ジャンプ台、コースの名称

ジャンプ台、コースの所在地

ジャンプ台、コースの管理責任者

ジャンプ台、コースの概要

- (1) コースの全長
- (2) 標高差及びスタート地点、ゴール地点の標高
- (3) 平均斜度
- (4) 最大斜度
- (5) 会場地点の標高
- (6) 極限登行標高差
- (7) 合計標高差
- (8)
- (9)
- (10)

調査年月日

ジャンプ台、コースの施設

- (1) スキーリフト
- (2) 小屋、便所（ワックスルーム）
- (3) 放送施設
- (4) 防護施設
- (5) 掲示板
- (6) ジャンプ台、プロフィールのゲージ

大会運営

- (1) 経歴
- (2) 宿泊施設
- (3) 宿泊可能人員
- (4) 公認旗門審判員の数
- (5) 競技運営指導員の数

調査結果認定

公認期間 自 平成 年 月 日
至 平成 年 月 日

(様式)

S A J ジャンプ台、コース公認台帳

公認ジャンプ台、コース番号(種目) No.

ジャンプ台、コースの名称

ジャンプ台、コースの所在地

ジャンプ台、コース申請者

所属都道府県連盟

ジャンプ台、コースの管理責任者

調査委員名

公認年月日 平成 年 月 日

公認期間 自平成 年 月 日

至平成 年 月 日

公認料納入 平成 年 月 日 ¥

公認認定証発送 平成 年 月 日

ジャンプ台、コースの概要

(1) コースの全長

(2) カテゴリー(A ・ B ・ C ・ D ・ E)

(3) 標高差(HD) m

(4) 最高地点標高 m

(5) 最低地点標高 m

(6) スタジアム標高 m

(7) 合計登高値(TC) m

(8) 極限登高値(MC) m

ジャンプ台、コースの施設

(1) スキーリフト

(2) 小屋、便所(ワックスルーム)

(3) 放送施設

(4) 防護施設

(5) 掲示板

(6) ジャンプ台、プロフィールのゲージ

大会運営

(1) 経歴

(2) 宿泊施設

(3) 宿泊可能人員

(4) 公認旗門審判員の数

(5) 競技運営指導員の数

公認の継続

	公認期間	公認料	記事
1	自平成 年 月 日 至平成 年 月 日	年 月 日 ¥	
2			
3			

(様 式)

競技施設公認継続申請書

平成 年 月 日

公益財団法人全日本スキー連盟会長 殿

申 請 者
所 属

このことについて、公認を継続いたしたく申請いたします。

記

ジャンプ台、コースの種別

ジャンプ台、コースの名称

ジャンプ台、コースの所在地

ジャンプ台、コースの管理責任者

公認月日及び番号

概要及び施設に変更のあるときは、詳細を記入し再調査の依頼をすること。